

社会のニーズを的確にとらえた製品・サービスを開発・提供し、人々の生活向上や社会的課題の解決に寄与することで、持続可能な社会の発展に貢献することが企業に期待されています。シチズングループでは、安全、品質、環境に十分配慮した製品・サービスを提供し、お客様と信頼関係を構築し続けることをめざしています。

変わるものがない

創業時からのものづくりへの想い

1924年、当時の日本ではごく限られた人しか持てなかった時計を、「国民すべての手に」という創業者の想いのもと、「CITIZEN」ブランドの時計は誕生しました。

そして1976年、シチズングループは光発電に注目し、光を電気エネルギーに変換して時を刻む画期的な仕組みを開発しました。地球上どこでも光さえあれば動き続けるシステムは、いい換えれば「世界中の市民が平等に使える時計」といえます。電池の普及していない国でも、時計を使用することが可能になりました。

創業時の想い、そして夢は、現在でも時計の組み立て現場をはじめ、開発やデザインを担う現場など、あらゆるシーンで、すべての従業員に、シチズンのDNAとして脈々と受け継がれています。

「市民に愛され、親しまれるものづくりを通じて、世界の人々の暮らしに貢献すること。」企業理念、そして「シチズン」というこの社名を胸に、シチズングループは、これからも新しい価値を社会に創造していきます。

シチズン平和時計
時計製造部

橋場 悦子 (写真右)

時計の完成品組み立ての正確さを極め、電波時計の組み立てにおいて極めて難しいとされる文字板の目盛と秒針の位置合わせの手順を標準化し、電波時計の普及に大きく貢献。また、後進の育成やものづくりの楽しさを伝える地域活動にも精力的に貢献。平成17年に社内最高の称号「スーパーマイスター」を唯一取得、平成24年秋に「黄綬褒章」を受章。

シチズン平和時計
時計製造部

荒井 寛子 (写真左)

長年、時計のムーブメント組み立てから完成品組み立てに従事、時計組み立て全般に卓越した技能を持つ。社内の「時計学校」の講師として後進技術者の育成を担当しているほか、ものづくりの楽しさを伝える地域活動にも精力的に貢献。平成16年にマイスター制度で第1号として選ばれ、平成24年に「信州の名工」を受賞。

ものづくりは、
人づくり





すべての人々が輝くことのできる 夢のあるものづくり

東に南アルプス、西に中央アルプスがそびえる長野県飯田市にあるシチズン時計の生産の要、シチズン平和時計では、“もっと小さく・もっと輝く”をスローガンに掲げ、「技術は『マイクロ化』、技能は『マイスター化』」を基本コンセプトとした事業の高付加価値化をめざしています。『マイクロ化』とは、スローガンに掲げた“もっと小さく”のことで、時計を出発点に小型化や精密技術を追求し、高精度・微細技術を創出し続けるシチズングループのドメインを表すとともに、省エネ・省資源・省スペースなど地球環境を大切にしたいものづくりや手番短縮・在庫・ムダの削減など生産体制の効率化も含まれています。一方の『マイスター化』は、技能のさらなる向上と確実な伝承により、ほかではまねのできない“もっと輝く”ものづくりを推進していこうというものです。そして、この“もっと輝く”には、事業活動を通じてすべてのお客様が、すべての従業員が、そして地域社会、地球環境が、大きく輝いて欲しいという想いも込められています。「“もっと輝く”というフレーズ、その想いがとても気に入っています。これこそが私たちの仕事のやりがい、魅力であり、そのために毎日頑張っています」とマイスターの荒井が話すように、シチズングループでは、関わるすべての人々が輝くことのできる夢のあるものづくりをめざしています。

技術の基盤は人にある

シチズングループでは、安全、品質、環境に十分配慮した製品・サービスを提供するために、お客様の声に傾聴することはもちろん、ものづくりに関わる従業員の育成にも力を注いでいます。シチズン平和時計では、従業員が時計をつくる上で必要な技能を習得し、さらなる技能の向上と次世代へ確実に技能を継承することを目的に、1990年代に時計学校を社内に開校しました。開校以来、さまざまな工夫を凝らしてきたことで、参加者の技能は向上し、従業員の技能に対する意識も高まっています。

そして、技能と同様に人づくりにも継続的に取り組んでいます。後進の育成にも精力的に取り組むスーパーマイスターの橋場が「ものづくりは人づくりです。良いものづくりのためには、技能だけでなく、あいさつや掃除などの基本的な習慣を身に付けることが大切です」と話すように、お客様に愛され親しまれるものをつくるために、皆様に愛され親しまれる人づくりにも取り組んでいきます。



時計学校の取り組みと技能五輪への参加



時計学校では、学んだ技能を次の世代に“伝えるサイクル”を大切にしています。学んだ技能は、人に教えることができ初めて身に付いたといえます。つまり、人を育てるためには、教えることができる人をいかに育てることができるかがポイントになります。また、技能の重要性や必要性を若手従業員に認識してもらうために、技能五輪大会*へも参加しています。これからも技能向上と技能継承の活動を継続的に行っていきます。

*技能五輪大会

23歳以下の若者が、ものづくりやサービス等さまざまな職種の技能を競う大会。2012年の長野大会では、24年ぶりに時計修理職種がデモンストレーション競技として行われ、シチズングループから9名が出場しました。

TOPICS